

(6) 呼吸器／消化器感染症で入院した小児患者への抗菌薬使用状況

【指標目的】

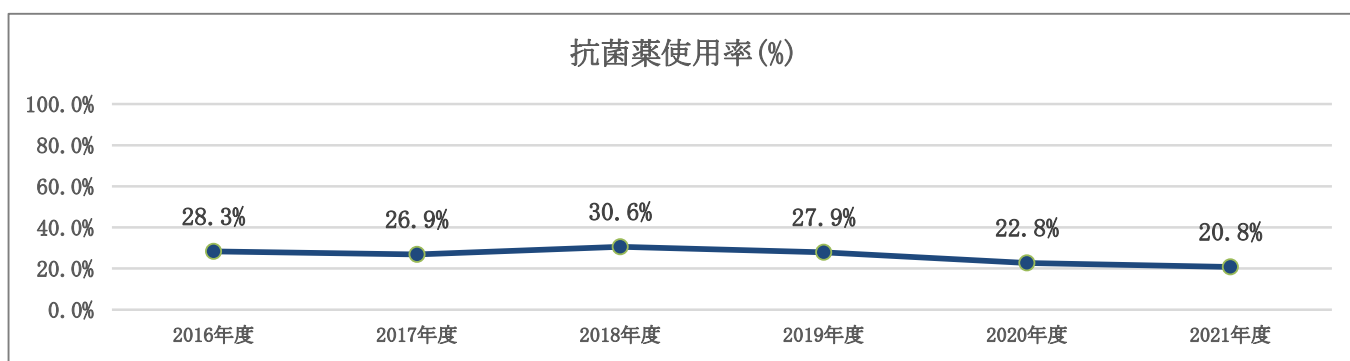
抗菌薬がその効果を最大限に保ち、耐性菌を増やさないようにする為に、抗菌薬の適正使用が重要である。小児科領域における感染症ではウイルス感染が多く、抗菌薬治療が必要ではない場合が多い。今回、当科における抗菌薬使用状況を明らかにすることで、抗菌薬適正使用の指標の一つとしたい。

【統計結果】

[分母] 集計期間内に退院して、DPC病名に呼吸器または消化器感染症の疾患名が登録されている患者

[分子] 入院中に抗菌薬注射（処方）を使用した患者

集計年度	対象疾患の退院患者数 (分母)	抗菌薬使用患者数 (分子)	抗菌薬使用率 (%)
2016年度	385	109	28.3%
2017年度	553	149	26.9%
2018年度	615	188	30.6%
2019年度	709	198	27.9%
2020年度	136	31	22.8%
2021年度	308	64	20.8%

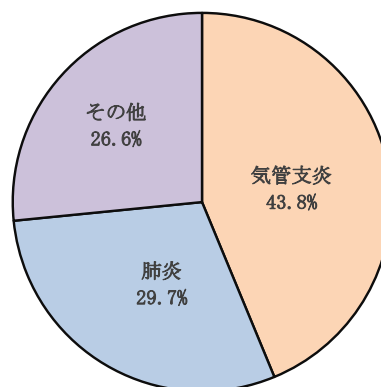


【2021年度 抗菌薬使用患者：64名対象】

○対象疾患

疾患名	患者数	割合 (%)
気管支炎	28	43.8%
肺炎	19	29.7%
その他	17	26.6%

対象疾患割合 (%)



○対象抗菌薬注射使用

抗菌薬注射名	患者数	割合 (%)
ピクシリン注	43	67.2%
セフトラックス注	15	23.4%
その他	6	9.4%

対象抗菌薬使用割合 (%)

